

第18回 宍粟市総合教育会議

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和4年7月15日 午前11時00分から

場所 宍粟市役所 4階 402・403会議室

第18回 宍粟市総合教育会議 会議録

● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和4年7月15日（金） 午前11時00分～午後0時15分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所 4階 402・403会議室

● 会議に出席した者の職氏名

構成委員

福元晶三	市長	中田直人	教育長
片山繁樹	委員	金本一二	委員
飯田さおり	委員	中川まゆみ	委員

事務局

大谷奈雅子	教育部長	小河秀義	教育部次長
進藤美穂	次長兼教育総務課長	岩路貴裕	こども未来課長
西林文隆	次長兼施設整備課長	谷尻博誉	学校教育課長
水口恵子	社会教育文化財課長	池本雅彦	次長兼山崎学校給食センター所長
岩本浩二	教育総務課副課長		

1 開会

● 福元市長あいさつ

教育委員の皆さま、早朝から教育委員会があつて、引き続き、教育総合会議ということで、ありがとうございます。

それぞれ平素は、教育行政の分野でお世話になっておりまして、また市行政に対しましてもいろいろ御支援いただいております。厚く御礼を申し上げたいと思います。

今日から10日間、夏の交通事故防止運動が始まります。

先ほど、宍粟警察署の署員全員、それから民生委員児童委員の皆さん、また、青少年健全育成委員の皆さんによる青パトでの発隊式がありました。

間もなく夏休みということで、子どもたちが安全な夏休みを過ごせるように、また交通事故がないように願っておるところであります。

同時にしーたん通信等でもお伝えしておりますが、子どもたちの通学等を含め、誰かが横断歩道を渡ろうとする場合は、車両は停止しなければならないのですが、なかなか車が停止しない状況です。

いずれにしても、子どもたちを含めた歩行者の安全確保に努めていき、また、PTAの皆さんを中心に、通学路のチェックが行われ、グリーンゾーンをつくってほしい等の要望もいただいておりますが、そういったことも含め、可能な限り、安全対策に努めたいと思います。

加えて新型コロナについても、先週から特に、全国でも兵庫県でも倍々に増えてきており、

昨日は約4,600人の感染が確認されています。

学校関係、あるいは幼稚園・こども園等におきまして、少し家庭内感染が広がりつつありますので、なかなか予断を許さない状況であります。あらためて、市民の皆さんに、感染対策の徹底を周知していきたいと考えています。

冒頭に申し上げたとおり、夏休みになりますと、さらに人流が高まってきますし、そういう機会も増えてきますので、一層の呼びかけをしていきたいと思っています。

いずれにしても、子どもたちにとっては、これまでの3年間、特に夏休みは非常に規制の強い時ばかりだったので、今年は野山等で伸び伸びと、家族や友達と過ごしてほしいと思っています。

今日の会議は、教育大綱の見直しと学校給食についてということで、後ほどご意見をいただきながら、それぞれの施策を推進していきたいと思いますので、短時間ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 協議報告事項

(1) 宍粟市教育大綱の見直しについて

教育大綱の位置づけ、各計画の計画期間満了による次期計画の期間や見直し等について、進藤次長兼教育総務課長が説明した。

・委員からの意見及び質問並びに事務局からの回答等

(片山委員)

1点目に、5Pのしそうの子ども生き活きプランの中で触れてある、特に今一番問題になっている教職員の働き方改革なのですが、もともと教員が不足しているということ各現場でもよく聞かせていただきますし、本年度の教員採用試験の倍率を見てもやはり最低の倍率になっています。結局、教員に対する魅力が低下しているということと、多忙感というのが一般的に拭き切れてないと思いますので、魅力向上を図るためにも、働き方改革を進めることが一番大事だと思います。4月に文部科学大臣もそう言われています。教員の質の向上といいますか、教員不足を解消するためには、働き方改革が非常に大事だということで、今後、生き活きプランの改訂について、その辺を大きく取り上げていただきたいと思います。

2点目に、4Pの子ども・子育て支援の部分ですが、安心して子どもを産み育てる環境づくりとありますが、これから新病院の計画について、明らかになってくると思います。特に子どもの出生率が宍粟市は非常に低くなってきているとのことで、将来、小学校の複式学級化が特に北部のほうで顕著になってくるのではないかと予想されますので、その点でも、小児医療や夜間救急について、これから非常に大切になると思います。

(谷尻学校教育課長)

1点目について、しそうの子ども生き活きプラン後期計画を策定するというので、この5～6Pに、基本目標・基本施策とありますが、この部分について、今後見直しを図っていくこととなります。

その中で、前期基本施策の検証に加えて、今日的な課題、片山委員のおっしゃった教職員の働き方改革であったり、ポストコロナ時代の教育、ICTを活用した教育など、それらのことについて、後期計画の中に反映できるようにしていきたいと考えております。

(福元市長)

2点目の医療について、特に救急については、おおむね90%近くを受け入れる体制があります。ただ全て受け入れるかというとなかなか難しい部分があり、救急車が総合病院へ行き、ここではどうにもならないケースについては、姫路の第三次救急も含めて搬送していく体制を整えています。

特に土曜日・日曜日の場合も、2人体制による救急体制をとっています。耳鼻科の日曜日については、この近辺では対応できる医療機関がなく、消防署が姫路まで搬送している状況であります。

新病院は170床を計画しておりますが、うち100床が地域包括病棟ということで、在宅へ向けた支援をしていく病棟となります。例えばはりま姫路総合医療センターは三次救急ですから、長くても3週間しか入院出来ません。その後、新病院で二次病棟として、最大60日間入院できる中で、リハビリであったり在宅へ向けた包括的なケアをして、つないでいこうということでもあります。

残りの70床のうち30床が、小児科と周産期になります。毎年、310人から400の方が総合病院で出産されています。残り40床は、病院で手術をされて入院する場合の病床になります。

こういった内容で、170床の計画となっています。

総合病院は、この近隣も含めて、小児科と周産期は重点的に中核を担うということになっており、医師の確保を含めて、中核病院として今後進めていきたいと思っています。先ほどお話にありました子どもを産み育てる環境の整備は、医療と重要な関連がありますので、医療とともに充実させていきたいと思っております。

(中田教育長)

1点目の働き方改革の部分で、現状の課題・認識として、2点あります。

一つ目は、働き方改革の推進は必要不可欠ではありますが、その目的は、教育の質の向上につながることでないといけない。

二つ目は、学校が今そうやって変わろうとしていることに対して保護者や地域の方々の理解がないと改革は進まない。今までは、勤務時間が終了した後も学校に先生がおられたら何でも対応していたわけですが、それが留守番電話になったり、転送電話等にならざるを得ない。これは子どもたちへの情熱が低下しているものではなく、教育の質を高めているんだ、子どもたちと向き合う時間、子どもたちにより関わる時間を増やしているんだという考え方に立っていかないと、なかなかこの改革への理解が進まないのではないかと感じています。

これらの部分について、プランの中ではしっかり書き込んで、保護者や地域の方々への理解も含めながら、実効性のある本質的な改革につながるようにしなければならないと思っています。

(片山委員)

働き方改革がなぜ日本人は下手かというか、日本人のコミュニケーションの特性に原因があるのではないかと思います。調整手当や残業手当のためにやっているのではなく、子どものために情熱を持ってやっているという部分と、その職場での人間関係の中でやはり早く退勤することが出来ないような気持ちがどこかにあるような気がします。

もっと突き詰めて働き方改革をやっていくことが、子どもたちにとってプラスになるという部分、そういう理解をみんなですていかないと、なかなか進まないのではないかと思います。

(金本委員)

この大綱の3Pの1番上に、まちの将来像として、人と自然が輝きという表現があり、この説明として、豊かで美しい自然環境を守っていくということが大切なことや書かれています。この部分を変えるのは難しいと思いますが、私は、大自然の営みの中で生活する、その大自然に対する感謝の念とか、畏敬の念とか、それらをどこかで表現できないかと…。そういう気持ちを持った上で、大自然と向きあっていくということが、私は大切なことだと思います。教育行政の上では、そういう感謝とか畏敬とかいうのを表すのは難しいかもしれませんが、精神的な面でもう少し表現していったほうがいいのではないかなと思います。

台風が来ない年は水不足になるそうです。でも台風が来ると災害が起こってしまう…。そういう中で、その営みを我々はどうかとらえていくかということが大切なことなのではないかなと思いましたので、提案したいと思います。

(中田教育長)

非常に大事な指摘をいただきました。

平成29年度から、新しい教科として、これまでは道徳の時間と言われていたものが教科化されました。そのポイントの一つとして、子どもたちに小学校から中学校を通じて、生命を大切にすること、その中に、自然への畏敬の念という項目がございます。新たなプランの中でも、当然現在のプランの中でもそこには触れています。

特にこの大自然に囲まれた宍粟の子どもたちが、自然への畏敬という考え方について、もう少し具体化させるなりして、大切に扱っていきたいと考えております。

(福元市長)

宍粟市が平成17年に合併したときに、将来どういったまちをつくっていこうかということで、「人と自然が輝き、みんなで創る夢のまち」に向かって、皆さん一緒にやってみようということで、実は市民憲章に今おっしゃったことがあります。市民憲章に定めていただいた4つの項目をどうやって具現化していくかということで、本当に大切なことだと思います。

(中川委員)

総合病院で出産したお母さんの場合は、自動的に総合病院で予防接種が計画されるそうですが、他の病院で出産したお母さんの場合は、自身で予防接種の病院を探さないと

いけないらしく、主治医のいないお母さんはどこに行けばよいのだろうと不安になられています。そういったケースを3件ほど聞きました。こういった小さな不安についても取り除くことができればよいと思います。総合病院の関係になるのか、子育て支援の関係になるのかわかりませんが、出産したお母さんが不安なく子育てができる環境づくりが必要だと思います。

(福元市長)

今後、子育て支援の中で十分検討していきたいと思います。先ほどお話にあった医療機関同士の連携が本当に難しく、そういう声をよく聞いておりますので、総合病院では他の医療機関でも予防接種を受けていただくという取組はしております。また機会があるたびにそういったことを伝えていきたいと思います。

(福元市長)

教職員の働き方改革に関連して、学校の先生の出勤簿はタイムカードですか、それとも印鑑ですか。

(谷尻課長)

学校の先生は、パソコン上に記録簿がありますので、パソコンを立ち上げれば何時に出勤、帰るときには何時に退勤ということで、記録をつけています。

(福元市長)

残念ながら、市役所組織の中でも印鑑がまだありましたので、確認をさせていただきました。

(福元市長)

教育大綱の見直しについて、生き活きプランも含めてであります。今後さまざまなご意見をいただきたいと思います。

それでは、特にその他にはないようでありますので、宍粟市教育大綱の見直しについて、原案のとおり了承いただくことでよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし

(福元市長)

それでは異議はないようでありますので、正式な大綱として、進めていただくようにお願いします。

(2) 学校給食について

宍粟市における学校給食の現状、課題、独自の取組等について、池本次長兼山崎学校給食センター所長が説明した。

・委員からの意見及び質問並びに事務局からの回答等

(金本委員)

給食の費用が逼迫しているということですが、その給食費を上げるか上げないかとい

う議論になるのでしょうか。それとも、行政のほうで何とか対応していくという議論になるのでしょうか。

(福元市長)

全体を預かる立場として、世の中の流れの中で、無償化とかいろいろな形が出ていますが、私は果たしてそれが正しいのかどうかと、疑問は常々持っております。

子育て支援の中で、給食費が本当に無償でいいのかどうかということについては、さまざまな議論があるかと思いますが、ただ、安全で安心で質の高い給食を提供しようとすると、今あったとおり、現状の給食費では非常に厳しいということは理解しています。

したがって、場合によっては給食費を上げていかなざるを得ないことも視野に入れながら検討しなくてはならないと思っています。そうした場合、かなりの勇気が要るんじゃないかと思いますが、これはまた、教育委員の皆さんを含めて、ご意見をいただければありがたいと思います。

それで今年については、物価高や燃料の高騰を含めて、財源を確保していかなければならない中で、約3,000万円を給食費に投入いたしました。通常は1,400万ほど、地産地消を高めていこうということで、私が市長になってからずっと予算を持たせていただいて、地域の特産品を子どもたちに…とやってきたのですが、これからはいろいろな課題があります。

どうしたらいいのかわからない部分もありますが、ご意見をいただければと思います。

(大谷部長)

食材費が逼迫しているという部分ですが、宍粟市の学校給食は質が高いということを徐々に知っていただいておりますが、それは、先ほど説明させていただいた独自の努力もたくさんしておりますので、そのことが十分に子どもたちや保護者の皆さま、また、地域の皆さまにも伝わるよう周知が必要と考えています。給食の質の高さであったり、残食であったり、地産地消であったり、食材費がどうかということについても、今まで十分にご説明してきたかということ、なかなか出来ておりませんので、教育委員会としましては、宍粟市の給食の良いところも含めて、保護者や地域の皆さまにお伝えしていくことをまずしなければいけないと考えています。

(中川委員)

地域の人は、給食がおいしいというのは、本当によくわかっていらっしゃると思います。そのような中で、給食費を無償にしてほしいといった意見は出ているのですか。

(大谷部長)

この間、給食費の無償化について、保護者の方や地域の方と議論自体をやってきていませんので、直接、教育委員会に「無償にしてほしい」といった声は届いていないと思います。いろいろな考えがあり、また、近隣の市町で給食費の無償化を実施しているところもありますので、そういった情報はお持ちだと思いますが、全国的に見て無償化を実施している団体は7%ぐらいと認識しています。

(中川委員)

個人的な考えとしては、食べるものは大事な命をもらうということであるので、しっ

かりその分のお金を支払って、充実した給食をいただくのがいいかと思います。

逆に給食費を無償にしたからといって、給食の質が下がるのであれば、きっとそれは皆さんも望まれないと思います。

無償化することで市の財政状況が悪くなるのであれば、給食費はちゃんと支払っていただいて、充実した給食を提供するということが私はいいかと思います。そのうえで、先ほどあったように、宍粟市の給食の良いところを十分に市民に周知していただいて、保護者の皆さんが質の高い給食を食べられるのであれば…と、納得したうえで支払ってもらえる形がいいかと思います。

(大谷部長)

宍粟の給食の良さをしっかりと伝えていくことに加え、給食費を無償化すると毎年1億ぐらいのお金を市で負担していかないとはいけませんので、そういったことも全て含めて、今までなかなか周知できていなかったのですが、機会を通じて、宍粟の給食への理解を深めていただく活動に教育委員会も取り組んでいきたいと思っています。

(金本委員)

宍粟の教育の中で、生きる力を養うという部分があると思います。それはとても大切なことですが、人間が生きていく上で大切なことは、衣・食・住については、ちゃんと自分で賄える力をつけていくということかと思っています。この面から考えてみても、給食費については、しっかりと負担してもらうことが大事だと考えます。

(片山委員)

先ほどの所長の説明の最後に、調理員の健康面にちょっと不安がという話がありましたが、しーたん通信を聞いていると、何度も何度も調理員の募集が出てきます。それこそ実は体調が悪いのだが、代替りの職員がいないので、仕方なく無理をして働き、それが異物混入の率を高める原因になったりするのであれば心配です。

調理する方の健康面に不安がないことや人間的な余裕、そういった部分がベースにあって、安全安心な給食につながっていくのかなと思いますので、何とかたくさんの応募があればと思います。

他人事になってしまうとダメですので、どうやったら応募者が増えるのかということ、教育委員会として考えていかなければと思います。

(飯田委員)

この給食費の話になったときに、親の立場からしたら給食費が上がるって嫌やなと思ったから、多分、どんな意見があるにしても私は最後まで反対派で行こうと思っていたのですが、ネットニュース等を見ると、他の自治体で牛肉を鳥肉に変えるとか、フルーツやデザートをなくすとか、これはちょっと困るなと思いました。うちの娘は「果物って高いから買えない。」と言います。家で食べる機会がなく、給食で食べる機会もなくなってしまうと、小さな時からずっと果物を食べられない子になる。そう考えると、給食費が上がったとしても、その分、子どもたちにいろいろな物を食べてもらって、しっかりした体と心をつくって勉強を頑張ってもらい、その方向のほうがいいなと思いました。

(福元市長)

この話をしておりますと、なかなか時間が尽きないと思うんですが、今日はさわりの部分だったと思います。私もこの問題をこれから市民の皆さん、また、教育委員の皆さんと議論ができればありがたいなと思っています。

現状から申し上げますと、先ほど大谷部長が申し上げたとおり、給食センターの経常経費、施設管理費や人件費の部分で約1億4,000万円、従来から市が負担すべきものとして計上されています。それから、昨年までは、保護者の皆さんから給食費として、従来で約1億4,000万円、最近では約1億1,000万円を徴収しています。

これらを全て市の経費で賄うとなると現実には厳しいと思います。

保護者の皆さんにはさまざまな意見があります。無償にしてほしいという方もいらっしゃいますし、ある程度しっかりした給食を提供してほしいという方もいらっしゃいます。

そういうことも含めながら、これはすぐに結論は出ませんが、皆さんといろいろ議論をしながら、あるべき姿を求めていくことが大事かなと思います。今日は、所長のほうから現状を訴えていただきましたので、施設の在り方等も含めてこれから議論できればと思います。今後ともよろしくお願いします。

(3) その他

特になし

3 その他

時間の都合により、割愛する。

4 閉会

● 中田教育長あいさつ

皆さんどうもありがとうございました。

時間が超過しておりますので、一言御礼を申し上げます。

皆さんの意見を聞きながら、物事を柔軟に考えること、状況に応じて考えていくことが、本当に大事だなと感じました。

私は、明確な考え方はまだ整理出来ておりませんが、今日のテーマにあったとおり、宍粟の学校給食が持続可能であること、つまり質の高い状況で持続することが大事なことだと思っています。質の低下につながるようなことはすべきでないと考えています。

委員の皆さん4人の大まかな意見は把握させていただきましたので、引き続き、教育委員会内部でも、しっかりと整理をしながら検討していきたいと思っています。

また、それをもって、市長にご報告させていただきながら、市としての考え方を判断いただければと思っております。

今日は教育委員会、引き続き、総合教育会議と長時間の議論となりましたが、これをもちまして、会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。